

## ワンヘルス(One Health)とは?

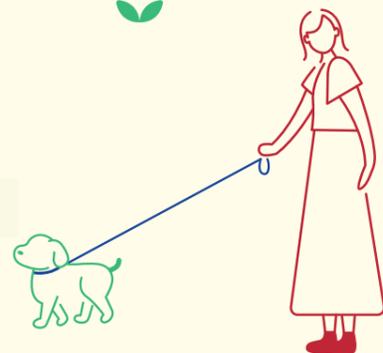
ワンヘルスとは、「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉え、一体的に守っていくという考え方です。

今、地球上では、人口の増加、森林開発や農地化などの土地利用の変化、これらに伴う自然環境の悪化や地球温暖化などの気候変動の影響が生じています。また、人がこれまで立ち入らなかった自然の奥地にまで侵入するなど、人と野生動物とが接触する機会が増加しました。こうしたことにより、新型コロナウイルス感染症をはじめとする、人と動物に感染する「人獣共通感染症」が増えています。それに備えるには、ワンヘルスの考え方に基づく取り組みが必要です。私たちが健康に暮らしていくためには、地球に暮らす動物、そして地球自身も健康でなければなりません。

福岡県では、人と動物、そして環境の各分野にまたがる課題に対応するため、さまざまな取り組みを進めています。ワンヘルスを実現していくためには、一人一人がワンヘルスの考え方を理解し、主体的に行動することが何よりも大切です。

例えば、毎日の手洗い・咳エチケットなどの基本的な感染防止対策を行うだけでも人獣共通感染症対策になります。抗菌薬（いわゆる抗生物質）は医師や薬剤師の指示に従って、用法用量を守り、最後まで飲み切ることで薬剤耐性菌の発生防止となります。また、自家用車の使用を控え、公共交通機関を利用することは二酸化炭素の排出を抑え、環境保護につながります。

このように、ワンヘルスは今すぐに取り組むことができるのです。本リーフレットをご覧ください、他にもどういったことができるのか、皆さまもワンヘルスを自分事として捉え、ワンヘルスについて考えるきっかけにいただければ幸いです。ぜひ一緒に「人と動物の健康と環境が調和した社会」を「次世代につなぐ」ことを目指していきましょう。



発行日／令和7年2月  
福岡県（保健医療介護部ワンヘルス総合推進課）  
〒812-8577 福岡市博多区東公園 7-7  
TEL：092-643-3622  
URL：https://onehealth.pref.fukuoka.lg.jp

ポータルサイト



Instagram



X



# FUKUOKA ONE HEALTH



# ワンヘルス 6つの基本方針

これらの方針に基づいたさまざまな取り組みを行うことで、理念の推進・実現を目指しています。

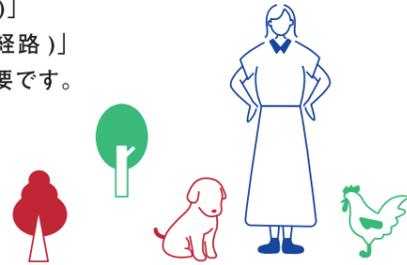
## POINT 1

### 人獣共通 感染症対策

「人獣共通感染症」とは、人と動物双方に感染する病気のことです。新型コロナウイルス感染症や狂犬病、牛海綿状脳症 (BSE)、高病原性鳥インフルエンザなど、国内外で大きな社会問題となった病気も多く、人の感染症の約 60% を占めるとされています。これらの感染を防ぐには「感染源 (病原体を保有している動物や物)」「感染経路 (飛沫感染や接触感染など病原体が体の中に侵入する経路)」「宿主 (病原体に寄生される生き物)」の 3 つの要因への対策が必要です。

#### 福岡県の取り組み

- ・感染症の調査・研究、予防啓発
- ・狂犬病対策、ワクチン接種の推進 など



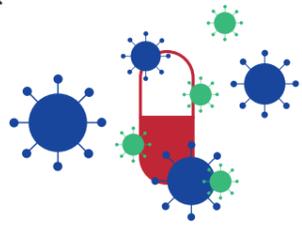
## POINT 2

### 薬剤耐性菌対策

「薬剤耐性菌」とは、抗微生物剤が効かなくなってしまった細菌のことです。薬剤耐性菌による感染症が発生すると、これまで効果のあった抗微生物剤が効かなくなるなど、治療が難しくなります。薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗微生物剤の開発は減少傾向にあり、このまま何も対策をしなければ、2050 年までに年間 1000 万人が死亡し、その数はがんによる死亡者数を超えると国連は警告しています。薬剤耐性菌を増やさないためには、一人一人の取り組みが重要です。

#### 福岡県の取り組み

- ・抗微生物剤の適正使用の推進、普及啓発
- ・薬剤耐性菌に関する調査・研究 など



## POINT 3

### 環境保護

生物多様性は、私たちの暮らしに様々な恵みをもたらすとともに、自然災害の防止や軽減にも寄与することから、その保全を図ることが重要です。また、地球温暖化は、異常気象の原因となるほか、生態系にも大きな影響をもたらすため、二酸化炭素の排出削減などの取り組みを強化していく必要があります。私たちが健康で持続可能な生活を送るためには、あらゆる生物が共有する大気、水、土壌などの環境を良好な状態に保ち、生物多様性保全や温暖化対策に率先して取り組むことが大切です。

#### 福岡県の取り組み

- ・希少野生生物の保護の推進
- ・省エネルギー対策の強化 など



福岡県では、令和2年12月に議員提案により、ワンヘルスの実践にかかる基本理念や基本方針などを定めた「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を制定しました。この条例に基づいて、令和4年3月にワンヘルスに関する県の施策を体系的に整理した「福岡県ワンヘルス推進行動計画」を策定し、さらに、令和4年10月には、「環境と人と動物のより良い関係づくり等福岡県におけるワンヘルスの実践促進に関する条例」を制定するなど、ワンヘルスの取り組みを進めています。

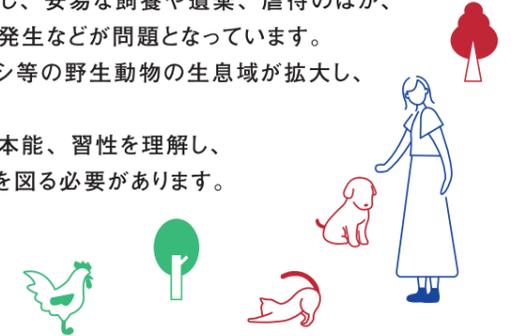
## POINT 4

### 人と動物の 共生社会づくり

私たちは、犬、猫、鳥などの愛玩動物 (ペット) や、災害救助犬、アニマルセラピーなどさまざまな場面で活躍する動物たちと共生しています。しかし、安易な飼養や遺棄、虐待のほか、過度な触れ合いや不適切な管理による人獣共通感染症の発生などが問題となっています。また、里山林に人の手が入らない地域では、シカやイノシシ等の野生動物の生息域が拡大し、人の生活圏への侵入が問題となっています。人と動物との関係をより良く保つためには、動物の生態や本能、習性を理解し、愛玩動物の衛生管理はもちろん、野生動物との棲み分けを図る必要があります。

#### 福岡県の取り組み

- ・地域猫活動の推進
- ・野生動物とのすみ分けを図る里山林の整備 など



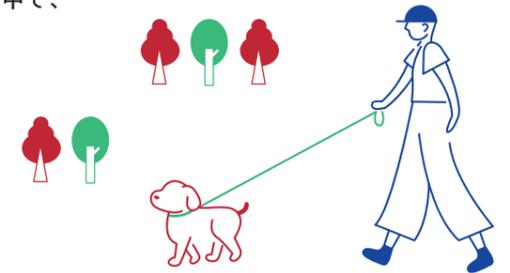
## POINT 5

### 健康づくり

豊かな自然の中を散歩したり、動物とふれあうことは、人を元気にする力があります。また、森林とふれあうことは、ストレスホルモンの減少や血圧・脈拍数の安定、免疫機能の増強など、さまざまな効果があることが科学的にも実証されています。私たちは、健全な環境と多種多様な動植物との関わりの中で、健康を維持しているのです。これからの健康づくりは、動物と環境とのつながりも一緒に考えていく必要があります。

#### 福岡県の取り組み

- ・森林浴等を楽しめる「ワンヘルスの森」の整備
- ・愛玩動物とのふれあいを通じた健康づくりの推進 など



## POINT 6

### より良い 環境と人と動物の 関係づくり

健全な環境で育った家畜や農作物・水産物を食べることは、人の健康にも直結しています。安全な米や野菜などを作るためには、健全な環境の農地や水が必要です。肉・卵・牛乳などの畜産物は、牛・豚・鶏などが健康に育つよう、飼育環境や餌の安全性に配慮しなければなりません。また、地産地消に取り組むことは、「食」の安全・安心や環境への負荷軽減につながります。そして、「食育」を通して正しい知識を学び、農作物や水産物が自然環境や動物の「いのち」に関係していることを意識することも大切です。

#### 福岡県の取り組み

- ・ワンヘルスの理念に沿って生産される農林水産物等の認証
- ・食品ロス削減の推進 など

